

令和元年度 指定管理業務 実績評価シート

部課名 都市整備部公園緑地課

施設名	弘前市野外活動施設
施設の設置目的	優れた自然環境を活用し、市民に憩いの場を提供するとともに、広く市民の文化・体育向上を図る施設であることに加え、教育の場として子供の心身の健やかな成長に資する施設として設置したもの。
所在地	弘前市大字百沢字東岩木山2480番地1
指定管理者名	一般財団法人 弘前市みどりの協会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
1 事業計画の実施状況 事業計画に則り、施設維持管理の適期作業の実施及び各種イベントを開催する等、利用者の満足度等向上を図るため、施設の管理運営に努めていた。	
2 自主事業の実施状況 来場者へのサービス提供を目的に、ハイランドハウス内食堂営業の他、園内において物品等の販売を行った。また、集客を図るため動物愛護週間イベントやキャンプ関係等のイベントを実施し、11,934人の参加者があった。 自主事業を実施することにより、施設の魅力向上が図られており、シーズンを通じた集客に効果があった。	
3 市民サービス向上のための取組状況 ・休館日について、曜日や学校の夏休み期間等における利用者の便宜を図るための対応をしていた。 ・来場者に満足していただけるよう、丁寧な接客対応を常に心がけていた。 ・スキル向上のため接遇研修を実施したほか、不測の事態に備え救命救急講習を実施していた。 ・AEDを各施設に設置していた。(計2台) 安定した取組み等により、利用者が安全で安心して施設を利用でき、市民サービスの向上に貢献した。	
4 市民ニーズの把握の実施状況 弥生いこいの広場では、アンケート箱をハイランドハウス、動物広場料金所の2か所に設置し情報収集を行い、91件の回答があった。 要望等について、集客施設として速やかに対応しており、施設等の改修・修繕が必要な件については、市と協議のもとに進めた。	
5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など） 弥生いこいの広場施設入場者数は67,952人で前年度対比2,901人増、うち動物広場有料入場者数は27,575人で前年度並み、オートキャンプ場入場者数は2,810人で稼働率は11.8%であった。 入場者数は、継続したイベントの開催により充実が図られており、安定していた。	
6 指定管理業務の収支状況 常にコスト削減を考慮し、適正な運営に努めた。	

7 実地調査の結果

第1回実地調査 …… 令和元年10月15日に実施。内容は、管理運営全般。
 第2回実地調査 …… 令和2年3月17日に実施。内容は、管理運営全般。

管理内容を理解しており、利用者からの連絡に迅速に対応した良好な管理運営が行われていた。

8 成果指標の達成度

(入場者数実績) (目標人数) (達成度)
 67,952人 ÷ 64,000人 × 100 = 106.18%

施設の老朽化や天候などの条件がそろわない中で、目標を達成できた。

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	職員の配置、施設の平等な利用確保を確実に遂行した。また、キャンプ場の利用向上を目的としたイベント強化に努めた。	ニーズを取り上げ、新たな利用者の集客に努め、利用者の満足度を高める積極的な運営を心がける。イベント開催及び情報発信を積極的に行い、一層の集客を図る。
施設の管理	A	施設の老朽化などによる支障が出ないよう、日々の点検・清掃には、細心の注意を払いながら取り組んでおり、事故、トラブルはない状況であった。	設備等の不具合等、利用者目線に立ち、より安全で利用しやすい施設管理を今後も継続する。
経理の状況	A	法に定められた会計基準に準拠し、また、顧問公認会計士の指導のもと、適切な経理処理を行っている。	今後も経費の削減に努め、効果的に予算を執行し、誠実に経理処理を行う。
団体の財務状況	B	自己資本比率、流動比率、固定比率、総資本経常利益率、いずれも健全な財務状況である。	現在の財務状況は良好であることから、今後も安定的な財務基盤が保てるよう努める。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	施設の設定目的達成のため、法令等を遵守し、職員の教育・配置、公平性の確保、自主事業の実施及び営業時間等延長で入園者へ便宜を図るなど、来客対応がなされていた。さらに、利用者ニーズの把握のためアンケート調査を実施していた。	今後も利用者目線に立った運営を継続し、来場者の満足度を高めていただく。
施設の管理	A	利用者目線に立ち利用者の安全を第一に考えた施設管理が行われており、個人情報や文章等を適切に管理していた。	今後も利用者目線に立ち、より安全で利用しやすい施設管理を継続していただく。
経理の状況	A	帳簿等の整理・保管、経理の区分、収支状況及び経費の削減に努め、適切な処理がされていた。	今後も適正な経理に努めていただく。
団体の財務状況	B	安定的な施設の管理が可能な経理基盤であった。	今後も安定した財務状況を維持していただく。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する